**４　大阪市の将来の収支見通し**

大阪市は、将来世代に負担を先送りしないため、「補てん財源に依存」するのではなく、「収入の範囲内で予算を組む」ことを原則とし、市民感覚をもって行財政改革を徹底的に行い、「通常収支※（単年度）の均衡」をめざすこととしています。

右下の「今後の財政収支概算（粗い試算）［2018(平成30)年2月版］」は、そのために必要となる収支改善の目安を一定の前提により試算したものです。

試算結果はどうだったの？

前回の試算（平成29年2月版）と比較すると

一定の改善がみられ、試算期間半ばに通常収支不足は一旦解消する見込みですが、期間終盤には再び収支が悪化する見込みであることから、依然として楽観視はできない状況となっています。

**<ご注意を>** この試算は、不確定要素を多く含んでおり、

相当の幅をもってみる必要があります。

**◎用語説明**

**＜通常収支とは？＞**

補てん財源（不用地等売却代、財政調整基金）を

活用しない収支のことです。

今後、どういった対応をするの？

将来世代に負担を先送りしないため、引き続き市政改革に取り組み、全市的な優先順位づけを行うなど、事業の選択と集中を進めるとともに、更なる自律的な改革に取り組み、行財政改革を強力に推進していきます。

市政改革の詳細をご覧になりたい方は大阪市HPへ（<http://www.city.osaka.lg.jp/shisei/category/3054-2-0-0-0-0-0-0-0-0.html>）

次ページ以降は、予算の推移など、「大阪市の財政の現状」について、説明していきます。

※平成30年度予算では、補てん財源（不用地等売却代、財政調整基金）を活用することから、実際の収支不足は生じていません。

※前提条件など、詳しくは大阪市ＨＰまで

<http://www.city.osaka.lg.jp/shisei/category/3060-3-2-6-0-0-0-0-0-0.html>

**今後の財政収支概算（粗い試算）［2018(平成30)年2月版］**



通常収支不足額